

## テレマン室内オーケストラ

1963年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。その活動は高く評価され「サントリー音楽賞」「音楽クリティッククラブ賞」、「大阪府民劇場賞」、等を受賞している。2003年、ドイツの「バッハ・フェスティバル」でC.P.E. バッハ「チェンバロ協奏曲 Wq1」を世界初演した。2007年にはクラシカル楽器による F.J. ハイドンのオラトリオ「四季」を好演、「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞。

2012年よりドイツ人バロック・ヴァイオリン奏者ウラ・ブンディース氏を首席客演コンサートマスターとして迎えた。



### 指揮：延原 武春 (のぶはら たけはる)

18世紀音楽を専門とする指揮者。1963年にテレマン室内オーケストラを創設。彼らを率いて「文化庁芸術祭・優秀賞」(関西初)・「第17回サントリー音楽賞」(現在もテレマンと東京交響楽団、京都市交響楽団以外のプロオーケストラは受賞していない)等を受賞。1982年、初演当時の編成とベートーヴェンの指定したテンポで「第九」を演奏(世界初)。2008年にはベートーヴェンの交響曲全曲を、作曲家指定のテンポとクラシカル楽器を使用して指揮。この公演が引き金となってドイツ連邦共和国より「功労勲章功労十字小綬章」が贈られた。2009年には大阪フィルに客演(民音主催)し、J. プラムス：交響曲第1番を指揮。2010年～12年には同楽団は延原とともにベートーヴェン：交響曲全曲シリーズを主催。「大阪フィルの次代を拓く」と言って過言ではない名演」等と絶賛を博するなど一際大きな話題となった。また、同時期に日本フィル横浜定期演奏会にも客演。その際のプラムス：交響曲第1番は EXTON レーベルからCD化された。2011年には延原の元に多くのプレイヤーが集う「一日だけのオーケストラ」として orchestra Japan 2011 が結成され、マラー：交響曲第4番を演奏。その演奏はライヴノーツ・レーベルからリリースされ「レコード芸術誌で特選盤に選ばれた。これらの成果が契機となってこのオーケストラは2012年にも再結集され、京都・大阪・神戸でやはりドヴォルザーク：交響曲第9番「新世界より」など、ロマン派のレパートリーを取り上げ、好評を博した。また、東日本大震災追悼・復興祈念コンサートとして、いづみホールでプラムス：ドイツ・レクイエムを、2014年、2015年と2年連続で演奏。2014年の公演はライヴノーツ・レーベルよりCD化され、話題となった。



### リコーダー：村田 佳生 (むらた よしお)

大阪音楽大学楽理専攻卒業。桐朋学園大学カレッジ・ディプロマコース古楽器専攻に在籍後、アムステルダム音楽院リコーダー科卒業。リコーダーを彌永壽子、北山隆、花岡和生、サスキア・コーレン、ジャンネッテ・ファン・ヴィンゲデンの各氏に師事。現在関西を拠点に各地で演奏活動を行っており、自身のリサイタルシリーズのほか、近年はテレマン室内オーケストラと、A. ヴィヴァルディ及び G. P. H. テレマンのリコーダー協奏曲や、J.S. バッハのブランデンブルク協奏曲公演などでたびたび共演している。また各地でリコーダー奏法の指導にも当たっている。大阪音楽大学非常勤講師。リコーダーカルテット「まるかる」「スーパーリコーダーカルテット」メンバー。CDに「ジェームズ・ペイジブルのソナタと組曲集」、「Super Recorder Quartet Vol.3」、「ジャン・パティスト・レイエ・ドゥ・ガンリコーダー・ソナタ選集」などがある。



### ヴァイオリン：浅井 咲乃 (あさい さきの)

テレマン室内オーケストラ、ソロコンサートマスター。2008年にヴァイオリン・ソリストとして登場し、ヴィヴァルディの「四季」全曲を見事に好演。2010年の第195回定期演奏会における同曲の公演も「いま、もっとも聞きたい『四季』と言ってよい」(モーストリークラシック 2011年2月号)という高い評価を得ている。2012年にはナミレコードよりヴィヴァルディ「四季」全曲、「ムガール大帝」などを収録した1STアルバムを、2015年には2ndアルバム「『よろこび』と『かなしみ』」をリリース。2016年から2017年にかけて、オリジナル楽器によるベートーヴェン作曲ヴァイオリン・ソナタ全曲公演に出演。平成30年度咲くやこの花賞(音楽部門)を受賞。



### ヴィオラ：姜 隆光 (Kang-Yoongkwang)

テレマン室内オーケストラ首席ヴィオラ奏者。2003年のドイツの演奏旅行においてテレマン「ヴィオラ協奏曲 ト長調」を好演。2004年の東京定期演奏会ではC.P.E. バッハ「ヴィオラとチェンバロの為のソナタ短調 Wq88」を、2007年の東京定期演奏会でもヴィヴァルディ「ヴィオラ・ダモーレ協奏曲 二長調」を好演。2007年テレマン室内オーケストラのヴァイオリン奏者に。東京定期演奏会ヘンデル「ヴァイオリンと通奏低音の為のソナタ 二長調」やJ.S. バッハ「ヴァイオリンとチェンバロの為のソナタ 第6番」を好演。2008年テレマン室内オーケストラのコンサートマスターに就任。クラシカル楽器を使用したベートーヴェン交響曲全曲の連続演奏会を成功に導いた。ヴィオラへのこだわりがあり、当人からの強い要望で再びヴィオラ奏者となり、指揮者・延原武春の音づくりをサポートしている。



### 新型コロナウイルス感染拡大防止のためのご協力をお願いいたします。

- ・発熱や体調のすぐれない方は、ご来場をお控えください。・ご来場時はマスクの着用をお願いいたします。
  - ・手指の消毒や手洗いをお願いいたします。・チケット購入時またはご来場時、「お名前・ご連絡先」等をお伺いします。この情報は必要に応じて保健所等の公的機関へ提供する場合がございますので、ご了承ください。
- ※兵庫県及び明石市市民会館自主事業開催ガイドラインに沿って運営しています。